

殺されていく命

第5回 死刑映画週間



© Action Inc.



© 日活



© 東海テレビ放送



© 大島渚プロダクション



© 日活



© ARTE France - 2011 - LES CANARDS SAUVAGES - 7ème Apache Films - PROVOBIS FILM

映画+監督+制作年+語る人（一回限り、裏面参照）

『絞死刑』
（大島渚 1968）×鈴木道彦

『約束』
（斉藤潤一 2013）×山本太郎

『スリーピング・ボイス ～沈黙の叫び～』
（ベニト・サンブラノ 2011）×太田昌国

『愛と死のかたみ』
（斎藤武市 1962）×神田香織

『シャトーブリアンからの手紙』
（フォルカー・シューレンドルフ 2012）×鶴飼哲

『袴田巖 夢の間の世の中』
（金聖雄 2015）×袴田秀子+金聖雄

『九人の死刑囚』
（古川卓巳 1957）×小田原ドラゴン

『息子のまなざし』
（ジャン＝ピエール&リュック・ダルデンヌ 2002）

48年ぶりに釈放された
冤罪死刑囚・袴田巖さんの日常を追った
『袴田巖 夢の間の世の中』（金聖雄監督）、
一般公開に先駆けて上映！
同じく冤罪死刑囚で、
獄死した奥西勝さんの無念を思い、
『約束』（斉藤潤一監督）を再上映。
国家の名の下に「殺されていく命」の中には、
このように、無実の人がいる現実を考えたい。
同時に、実際にひとを殺めてしまった加害者への
「刑罰」はどうあるべきかという問題も
もっと広く話し合うことのできる社会でありたい。

第5回 死刑映画週間 殺されていく命 上映作品

A 『絞死刑』



2月13日(土) 11:00
2月15日(月) 19:00
2月18日(木) 16:00
©大島渚プロダクション

監督=大島渚

1968年 日本 117分 製作=中島正幸 山口卓治 脚本=田村孟 佐々木守 深尾道典 大島渚 撮影=吉岡康弘 美術=戸田重昌 音楽=林光 出演=伊藤道 佐藤慶 渡辺文雄 戸浦六宏 足立正生 小松方正 松田政男 小山明子 石堂淑朗 ナレーション=大島渚

【物語】1958年に起きた小松川事件の犯人をモデルに、死刑囚Rの死刑執行をめぐる物語。在日朝鮮人Rは絞首刑にされるが、縄にぶら下がったままで脈は止まらない。生き残ったRを再執行しようとする刑務官たち。再現された死刑場を舞台に死刑制度の矛盾をえぐり出し、在日朝鮮人差別問題、天皇制等、この国にある根本的な問題が浮き彫りになる大島渚映画の一点。

B 『約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』



2月13日(土) 13:30
2月15日(月) 11:00
2月16日(火) 16:00
2月18日(木) 13:30
©東海テレビ放送

監督=斉藤潤一

2013年 日本 120分 プロデューサー=阿武野勝彦 音楽=本多俊之 撮影=坂井洋紀 編集=奥田崇 出演=村代達矢 樹木希林 山本太郎 ナレーション=寺島尚し

【物語】2015年10月4日、八王子医療刑務所で奥西勝さんは亡くなった。89歳であった。1961年に三重県名張の小さな村で起きた「名張毒ぶどう酒事件」は、ぶどう酒を飲んだ女性5人が死亡した事件。逮捕された奥西さんは「警察に自白を強制された」と訴え一審は無罪。検察が控訴した二審で逆転死刑判決を受ける。死刑執行に怯えた四十数年の獄中生活。無実と再審を訴え続けた奥西勝さんの人生を、再現ドラマとドキュメンタリーで描いた作品を、奥西勝さんを悼んで上映する。

C 『スリーピング・ボイス〜沈黙の叫び〜』



2月13日(土) 16:30
2月15日(月) 13:30
2月18日(木) 19:00
2月19日(金) 11:00

監督=ベニト・サンブラノ

スペイン 2011年 123分 脚本=ベニト・サンブラノ 原作=ドゥルセ・チャコン 撮影=アレックス・カタラン 出演=インマ・クエスタ マリア・ロソン(ゴヤ賞新人女優賞)、マルク・クロマック ダニエル・オルギン

【物語】スペイン内戦で勝利したフランコ將軍独裁政権2年目の1940年。マドリードの女性刑務所では共和国派活動家の恋人や妻、母たちが次々に収監され、おぞましい裁判で次々と死刑が執行されていた。妊娠中に収監された姉オルテンシアを助けるため、コルドバから出て来た妹ベータは、水面下で共和国派を助ける元医師の家で働きながら、姉に差し入れ、子供のために謝罪するよう説得を続けるのだが…

D 『愛と死のかたみ』



2月13日(土) 19:00
2月15日(月) 16:00
2月17日(水) 11:00
2月19日(金) 19:00
©日活

監督=斎藤武市

1962年 日本 101分 原作=山口久代 脚本=棚田吾郎 主題歌作曲=船村裕 歌=高倉千代子 撮影=高村倉太郎 出演=浅丘ルリ子 長門裕之 小高節二 高野由美

【物語】保険会社に働く阿佐子は、教会から買った伝道用の雑誌で、野崎潔という死刑囚の手記を読み文通が始まる。野崎は長崎で生まれ11歳のとき戦災で両親と姉を失い、孤児として放浪生活のすえ志連隊になり、知人夫婦をハンマーで殺す事件を起こしてしまう。阿佐子は博多の拘留所で初めて野崎と会い、長崎へ赴き被害者の遺族にも会う。愛し合った二人は獄中結婚し、婚姻届けを送るのであるが…。原作は死刑囚と結婚した女性の往復書簡で、当時ベストセラーとなった。

E 『シャトーブリアンからの手紙』



2月14日(日) 11:00
2月16日(火) 19:00
2月17日(水) 13:30
2月19日(金) 16:00
©HATIE France 2011 LES CANTON SAUVAGES - Tous droits Film PROVISIONEL

監督=フォルカー・シュレンドルフ

2012年 フランス・ドイツ 91分 脚本=フォルカー・シュレンドルフ 撮影=リュボミール・バクシェフ 音楽=ブリュノ・クーレ 出演=レオポール・サルマン ビクトワール・デュボワ

【物語】1941年10月20日、ナチス占領下のフランスで1人のドイツ人将校が暗殺される。ヒトラーは報復として収容所のフランス人150人の銃殺を命令。政治犯が多数収容されているシャトーブリアン郡のシュゼル収容所では、銃殺されるフランス人のリストが作られていく。その中には、映画館でドイツ占領に反対するピラをまいたために収容された17歳の少年ギィ・モクも含まれていた。

F 『袴田巖 夢の間の世の中』



2月14日(日) 13:30

監督=金聖雄

2015年 日本 119分 プロデューサー=陣内直行 撮影=池田俊巳 出演=袴田巖 袴田秀子

【物語】1966年清水市で起きた味噌会社専務一家4人殺人事件の犯人とされた袴田巖さん。裁判では一貫して無実を訴えたが、1980年最高裁で死刑が確定。1981年以來、再審を求め続け、遂に2014年3月27日、静岡地裁は再審開始を決定した。この映画は再審開始決定後に釈放された袴田巖さんを追いかけたドキュメンタリー作品。袴田さんの再審はまだ開始されていない。今回は特別上映として一般公開に先駆けて1回のみ上映する。

G 『九人の死刑囚』



2月14日(日) 16:30
2月16日(火) 13:30
2月17日(水) 19:00
2月18日(木) 11:00
©日活

監督=古川卓巳

1957年 日本 96分 脚本=片岡薫 佐佐木乾 製作=大塚和 撮影=中尾利太郎 美術=木村威夫 音楽=佐藤勝 出演=小林旭 左幸子 山岡久乃 左ト全 金子信雄 高田敏江

【物語】元ボートレース選手村岡は死刑の判決をうけ拘留所に。村岡は二万円の遊興費欲しさに二人のひとを殺したと自供した。事実上恋人美奈子のために競艇のボス大野に借金を申し込むが、その無礼な態度にカッとして殺してしまったのだ。美奈子は「遊興費欲し」という動機に疑問を持ち減刑運動を始める。村岡は拘留所で、点字翻訳をしながら静かに処刑の日を待つ老人。雀を可愛がる身寄りのない中年男、拘禁性の精神病患者などの死刑囚たちと知り合っていく。

H 『息子のまなざし』



2月14日(日) 19:00
2月16日(火) 11:00
2月17日(水) 16:00
2月19日(金) 13:30

監督=ジャン・ピエール・リュック・ガルデルヌ

2002年 ベルギー・フランス 103分 製作=脚本=ジャン・ピエール・リュック・ガルデルヌ 撮影=フラン・マルクン 出演=オリヴィエ・グルメ(カンヌ映画祭男優賞)、モルガン・マリヌ イザベラ・スパール

【物語】職業訓練所で木工を教えるオリヴィエ。ある日、フランスという少年が訓練所に入所し、彼は木工のクラスを希望した。一は断るオリヴィエだが、フランススが気に入り翌日、自分のクラスで彼を受け持つ。フランスへの尾行を始めるオリヴィエ。なぜ、彼はオリヴィエが気になるのか。ある事件から心を閉ざしてしまったフランス。罪と罰、そして喪失。ドストエフスキ的なテーマを描いた秀作。

◆各回入れ替え制

*一部の作品の画・音に不備がある場合もありますので、ご了承ください。
*やむを得ない事情により作品および上映時間が変更される場合がございます。

13日(土)	14日(日)	15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)
A 11:00	E 11:00	B 11:00	H 11:00	D 11:00	G 11:00	C 11:00
B 13:30	F 13:30	C 13:30	G 13:30	E 13:30	B 13:30	H 13:30
トーク 15:30		D 16:00	B 16:00	H 16:00	A 16:00	E 16:00
山本太郎	袴田秀子&金聖雄	A 19:00	E 19:00	G 19:00	C 19:00	D 19:00
C 16:30	G 16:30	トーク 上映終了後				
D 19:00	H 19:00	鈴木道彦	鶴飼哲	小田原ドラゴン	太田昌国	神田香織

ゲスト紹介: 山本太郎=参議院議員/袴田秀子=冤罪死刑囚の姉/金聖雄=映画監督/
鈴木道彦=フランス文学者/鶴飼哲=フランス文学者/小田原ドラゴン=漫画家/
太田昌国=評論家/神田香織=講師

協力: Kimoon Film / Action Inc / 大島渚プロダクション / 東風 / 日活 / ビターズ・エンド / ムヴィオラ

入場料金

一般 1,500円 / 大学・専門学校生 1,300円 / シニア 1,100円 / 会員 1,100円 / 高校生以下 800円
当日3回券 3,000円 / 当日5回券 4,700円
前売券 1,000円 / 3回券 2,800円 / 5回券 4,500円
(前売券は2月12日まで劇場窓口にて販売)

ユロスペース

渋谷区円山町1-5 (渋谷・文化村前交差点左折) TEL. 03-3461-0211
<http://www.eurospace.co.jp/>

